

令和7年度 福島県教育研究発表会 二次案内

令和7年11月20日(木) 9:50~16:00

集合形式(会場:福島県教育センター)とオンライン形式を組み合わせて実施

◎ 趣旨

本県学校教育の向上に資するため、県内公立学校教員(幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校)の優れた教育実践・研究及び福島県教育センターの教育実践・研究の成果の発表と意見交換等を行う。

◎ 対象

県内外の幼稚園等・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校・大学等の教職員及び教育委員会関係者

◎ 参加費 無料

◎ 定員 300名

◎ 主催 福島県教育センター

◎ 共催 福島県教育庁義務教育課

◎ 後援 福島県小学校長会

福島県中学校長会

福島県高等学校長協会



申込方法

申込み切 令和7年10月24日(金)

下の URL(右の二次元コード)により表示されますフォームに必要事項を入力してお申し込みください。

<https://forms.gle/7Ep22WDhM2RtjSTg6>



◇県内の公立学校教職員(幼稚園等、大学等を除く)の方は、FCS アカウントでお申し込みください。

◇申込みが完了した場合には、フォームに入力したメールアドレスに、受付完了の自動送信メールが届きますので、確認をお願いします。

※メールアドレスに誤りがある場合は自動送信されません。自動送信メールが届かない場合は、必ず問い合わせ先までご連絡ください。

◇希望する研究発表のみの参加も可能です。ただし、基本研修として参加する場合は1日参加となります。

◇会場敷地内に駐車できる台数には限りがあります。公共交通機関の利用にご協力ください。

◇問い合わせ先 福島県教育センター 総合企画チーム

TEL 024-553-3193 Email center-happyo-gr@fcs.ed.jp

プログラム

受付

9:20～9:40

オンライン形式の受付については、参加手続き完了後にメール等でご案内いたします。

(来賓、発表者)第1棟正面玄関前のエントランスで受付を行います。第1棟(本棟)正面玄関からお入りください。

(一般参加者)研究発表1の各会場で受付を行います。第4棟(宿泊棟)脇の研修者入口からお入りください。

開会・諸連絡

9:50～10:00

オンライン形式の視聴方法については、参加手続き完了後にメール等でご案内いたします。

研究発表1の各会場での視聴となります。

発表

10:10～15:50

C会場、D会場は「ふくしま教育創造コンソーシアム」として発表を行います。

	A会場	B会場	C会場(コンソーシアム)	D会場(コンソーシアム)
研究発表 1 10:10～ 11:00	教育センター 調査研究チーム 学力調査等へのデータ 科学の活用と効果的な 授業改善の在り方	郡山高等学校 野田 友里恵 「話すこと[発表]」の論理性 を向上させる高等学校英語 科指導の在り方	郡山市立郡山第七中学校 スペシャルサポートルーム(SSR)を活用した学 校の取組について	伊達市立伊達小学校 道徳教育の推進を図る 学校の取組について
研究発表 2 11:10～ 12:00	教育センター 情報教育チーム 教育の情報化の推進に 向けたクラウド活用の在 り方	白河市立白河中央中学校 安部 賢(長期研究員) 「科学的に探究する力」 を育てる中学校理科指 導の在り方	福島市立松陵義務教育学校 総合的な学習の時間の 推進を図る学校の取組 について	
研究発表 3 13:00～ 13:50	教育センター 教育相談チーム チームで取り組む親和 的な集団づくり	福島東高等学校 齋藤 純一 自らの考えを深めながら文学 作品を解釈する力を育む高等 学校国語科授業の在り方	いわき市立草野中学校 AIを活用した英語教育の 推進を図る学校の取組に について	西郷村立羽太小学校 歯科指導の充実を図る 学校の取組について
研究発表 4 14:00～ 14:50	会津学鳳中学校 今村 裕子 中高一貫教育における学 びの連続性を生かした中 高連携のキャリア教育	南会津高等学校 高橋 悠 高校美術科の授業にお けるICT活用の可能性 に関する研究	喜多方市立第二こども園 幼児教育の充実を図る 取組について	西郷村立熊倉小学校 学力向上に向けた学校 の取組について
研究発表 5 15:00～ 15:50	福島市立信陵中学校 石井 愛(長期研究員) 相手の発話に応じて話す 力を高めるための中学校 英語学習指導の在り方	いわき翠の杜高等学校 渡辺 瑞希 高等学校における自ら 意思決定できる生徒の 育成の在り方	相馬市立向陽中学校 学力向上に向けた学校 の取組について	田村市立常葉小学校 NIE教育の推進を図る 学校の取組について

閉会・諸連絡

15:50～16:00

オンライン形式の視聴方法については、参加手続き完了後にメール等でご案内いたします。

研究発表5の各会場での視聴となります。

発表のここに注目！

研究発表1

10:10～ 11:00

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A1	学力調査等へのデータ科学の活用と効果的な授業改善の在り方（第一年次） －教育データの段階的活用と教育的課題への実践的アプローチ－ 福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 三星 祐輔	・エビデンス(根拠)に基づく教育施策の推進 ・教育データの段階的活用 ・「学びの変革」ガイド	「学びの変革推進プラン」の主な取組の一つである「エビデンス(根拠)に基づいた教育施策の推進」の実現に向けて、学校現場でできる教育データ分析と、その活用を通じた効果的な授業改善の在り方を提案します。 当センター「学びの変革応援事業」の研究協力校との実践を紹介します。
B1	「話すこと[発表]」の論理性向上させる高等学校英語科指導の在り方 －統合的な言語活動を積み重ねる単元構想の工夫を通して－ 福島県立郡山高等学校 教諭 野田 友里恵	・論理性の向上 ・三角ロジック ・統合的な言語活動	「話すこと[発表]」の領域において、情報や考え方、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝えることのできる能力の育成が求められています。 本研究では、三角ロジックの三つの要素を整理してから自分の意見を述べさせることで、発表内容における論理性の向上を目指します。
C1	コンソーシアム チーム学校で取り組む「子どもの安心・安全な居場所づくり」を目指して 郡山市立郡山第七中学校 校長 高原 栄治	・チーム学校 ・多様化する不登校の要因 ・居場所づくり ・個に応じた支援(学びの保障) ・校内間及び外部機関との連携	郡山第七中学校では、集団が苦手な子のためにサポートルームを設置していました。令和6年度からSSR担当者を配置して、より子どもの安心・安全な居場所としています。 学校管理職とSSR担当者が中心となり、多様化する不登校生徒に対し、「チーム学校」として支援にあたってきました。 そのための体制づくりや担任、担当との連携、個に応じた学びの保障の事例などについて紹介します。
D1	コンソーシアム 主体的に学びに向かい、自己を見つめることのできる児童の育成 －互いのよさを認め合いながら、多面的・多角的に考える道徳科の授業を通して－ 伊達市立伊達小学校 校長 伊藤 栄	・道徳教育 ・道徳科授業づくり ・自己理解 ・他者理解 ・つながり合う ・多様な感じ方や考え方方に触れる ・自分自身の考えを広げたり深めたりする	本校は、学校経営の重点目標として「自己マネジメント力を高め、自らの人生を切り拓く力の育成」を掲げ、「自他のよさを認め合い、つながり合う子どもの育成」を努力目標の一つとして、道徳教育と関連を図りながら取り組んでいます。 その中で、自己マネジメントを通した「自己理解」、つながりを通して「他者理解」を重視した教育活動や、児童が他者とつながり、多様な感じ方や考え方方に触れることを通してお互いのことを理解し、自分自身の考えを広げたり深めたりすることができる道徳科授業づくりの取組について紹介します。

研究発表 2

11:10～ 12:00

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A2	教育の情報化の推進に向けたクラウド活用の在り方 福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 高野 靖紀	・1人1台端末活用 ・クラウド活用 ・授業 DX ・校務 DX	当センター「学びの変革応援事業」の一環として、市教育委員会と連携しパイロット校の挑戦を市全体に共有、1人1台端末を活用した個別最適な学びや協働的な学びを実現する工夫を重ねています。授業や校務に役立つ実践のヒントと、地域とともに進める教育 DX の姿にご注目ください。
B2	「科学的に探究する力」を育てる中学校理科指導の在り方(第二年次) —「妥当性の視点」を用いた探究活動を通して— 白河市立白河中央中学校 福島県教育センター 長期研究員 安部 賢	・探究的な授業 ・妥当性の視点 ・実験結果に疑問をもち、追究する姿	中学校理科では、実験結果を分析して解釈する力の向上が求められています。 本研究では、「妥当性の視点」により、実験結果に疑問をもち、追究する姿を引き出しました。その姿が、実験結果を分析して解釈する力の向上にどのようにつながったのか、その実践を紹介します。また、普段の授業をより探究的なものに変えていく授業づくりについても提案します。
C2	コンソーシアム 地域をフィールドにした総合的な学習の時間「まつかわ学」の実践 —質の高い探究的な学びの実現にむけて— 福島市立松陵義務教育学校 教頭 神野 学	・探究 ・地域とのかかわり	今年度から義務教育学校となった強みを生かした、総合的な学習の時間の実践と、その9年間の学びの出口である8・9学年の縦割りで実施する「まつかわゼミ」における、「質の高い探究的な学びの実現」へ向けた取組を紹介します。
D2			

Fukushima Prefectural Education Center

明 日 の
福 島 の
教 育 を つ く る



研究発表 3

13:00～ 13:50

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A3	チームで取り組む親和的な集団づくり 福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 鈴木 雄大	・親和的な集団づくり ・WEBQU ・AARサイクル ・校内研修モデルプラン	当センター「学びの変革応援事業」2年目の本年度も、教育相談チームでは、親和的な集団づくりを目指す実践校の支援を行っています。 昨年度の成果を踏まえ、AARサイクル(見通し・実践・振り返り)に基づき、「校内研修モデルプラン」を作成しました。 特に「見通し」においては、WEBQUの結果を分析し、分析を踏まえた「次の一手」について協議をしました。 担任が一人で抱え込むのではなく、チームで親和的な集団づくりを行う実践校の取組をご紹介します。
B3	自らの考えを深めながら文学作品を解釈する力を育む高等学校国語科授業の在り方 —多様な着眼点を相互理解する学習を通して— 福島県立福島東高等学校 教諭 斎藤 純一	・解釈の多様性 ・着眼点の相互理解 ・授業改善	県の課題の一つとして、「学びの変革」の実現に向けて、対話と協働を通して、生徒が自らの課題解決に取り組めるような授業の在り方が求められています。 研究協力校の授業者とともに、文学作品を教材として生徒自ら考えを深めながら、文章を解釈する力の育成を目指した授業改善の試みを紹介します。
C3	コンソーシアム 生成AIを活用した英語教育の推進を図る学校の取組について いわき市立草野中学校 校長 森 敏行	・生成AIの活用 ・スピーキング ・学びの変革 ・個別最適化された学び ・主体性の向上	これまでのスピーキングに関する研究の結果を基に、生成AIを活用した個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びにつながる指導実践について紹介します。
D3	コンソーシアム 学校歯科保健計画の推進と『良い歯の児童』の育成 西郷村立羽太小学校 教諭 物江 妙子 養護教諭 君島 美咲	・学校歯科保健計画 ・歯科指導 ・児童の活動 ・食育の視点から ・保護者・地域との連携	羽太小学校は、福島県学校歯科保健優良校を18年連続受賞しています。実態に即した計画を立案し改善を加えた実践に加え、児童の創意工夫に沿った活動を行っています。保護者・地域の意識の高さにも背中を押してもらっています。

研究発表 4

14:00～ 14:50

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A4	中高一貫教育における学びの連続性を生かした中高連携のキャリア教育 福島県立会津学鳳中学校 教諭 今村 裕子	・中高連携 ・中高一貫 ・キャリア教育 ・探究活動 ・SSH	本校は中高一貫校として、6年間を見通した先取り、深掘り学習を中学校の段階で行っています。しかし、中高一貫校ならではのメリットを十分に生かしきれていないことが、以前より課題とされていました。中学生が高校生のマインドに切り替えることができないまま、中だるみしてしまうことも、同様に以前より課題とされています。このような状況について改善し、さらに高校卒業後までの見通しを持ちながら、生徒たちが学習活動や進路活動を進めていくことができるようするために、本校の中高一貫教育推進部において実施した様々な取り組みについて紹介します。 また、探究活動や教科指導の部分での中高連携についても簡単にご紹介します。
B4	高校美術科の授業におけるICT活用の可能性に関する研究 －小さな越境と緩やかな繋がりを求めて－ 福島県立南会津高等学校 教諭 高橋 悠	・ICTの活用 ・遠隔地交流による教育リソースの共有 ・美術への興味・関心を引き出す	市街地から遠い学校の課題の一つとして、美術館をはじめとする文化施設へのアクセスが難しい点や同域内出身の生徒が多いことから、多様性を育む必要性が挙げられます。 ICTの強みを生かし、上記課題の解決を試みた実践を紹介します。
C4	コンソーシアム 架け橋期の学びをつなぐ横のつながりと縦のつながり －公立園・私立園の連携と幼小連携－ 喜多方市立第二こども園 園長 岩下 恵理子	・架け橋期 ・学びの連続性 ・私立園との連携 ・一小学校と複数園の交流	一つの小学校に進学する複数の園が公私の別、施設類型を越えて連携することにより、幼児教育の質の向上と幼保小の学びの連続性を保障しています。 幼児教育施設同士の交流や園児・児童の育ちをつなぐ架け橋期のカリキュラム作成、実施について紹介します。
D4	コンソーシアム 主体的に学び合う教師集団を創る校内研修コーディネート 西郷村立熊倉小学校 教諭 本田 朋美	・対話型研修 ・フォーマルミーティング ・カジュアルミーティング ・業務改善と研修	「令和の日本型教育」の実現に向けて、子どもだけでなく教師自身の学び(研修観)の転換が求められています。 そこで、本校では授業の質的改善をめざして教師が主体的・協働的に取り組むことができる校内研修の在り方を工夫してきました。今回、その取組を紹介します。

研究発表 5

15:00～ 15:50

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A5	<p>相手の発話に応じて話す力を高めるための中学校英語科学習指導の在り方（第二年次） 一聞き手と話し手の役割に着目した対話の工夫を通してー</p> <p>福島市立信陵中学校 福島県教育センター 長期研究員 石井 愛</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を継続・発展させる ・聞き手と話し手 ・話を続ける Tips 	<p>「話すこと[やり取り]」の領域では、理解したことや知識を活用し、対話を継続・発展させる力を育成するための授業改善が求められています。</p> <p>本研究では、聞き手と話し手の役割を明確にした「話を続ける Tips」を活用しながら対話や省察を行うことで、相手の発話に応じて話す力を高めることができる授業づくりを提案します。</p>
B5	<p>高等学校における自ら意思決定できる生徒の育成の在り方 ー自己のリソースへの気付きを促す学級での集団指導と保健室での個別支援を通してー</p> <p>福島県立いわき翠の杜高等学校 養護教諭 渡辺 瑞希</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己のリソース ・養護教諭 ・集団指導 ・個別支援 	<p>本研究では、様々な場面で自己のリソースを選択し、使おうとする自ら意思決定できる生徒の育成を目指しました。そのために、養護教諭が、ホームルーム活動での担任とのTTによる集団指導と、保健室での相談活動による個別支援を実施し、生徒が自己のリソースに気付けるよう促した実践を紹介します。</p>
C5	<p>コンソーシアム 数学科における学力向上に向けた取り組みについて ー対話を軸とした学び合い活動を通してー</p> <p>相馬市立向陽中学校 教諭 田中 涼太</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に届く学習課題の設定 ・自他との対話 ・リーディングスキルの視点 	<p>各調査の結果より、数学に対して苦手意識をもつ生徒が多いことが分かりました。</p> <p>生徒の興味・関心を大切に、対話を軸とする学び合い活動を展開することで、苦手意識を克服し、学力を向上させることができると考え、本研究を進めました。</p> <p>各領域の研究を、生徒の様子を踏まえながら紹介します。</p>
D5	<p>コンソーシアム NIE教育で「情報活用能力」を育む！ ー具体的な活用事例の紹介ー</p> <p>田村市立常葉小学校 教諭 松下 小町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NIE教育 ・読む力 ・自主学習 	<p>全国学力・学習状況調査の結果から、本校では、読む力、複数の情報を関連付けて理解を深める力が課題です。そこで、新聞を使ったNIE教育を取り入れ、「情報を活用する力」の育成に向けて指導を工夫してきました。</p> <p>昨年度NIE実践認定校1年目として行った「新聞を活用した授業や委員会の取組」について具体的に紹介します。</p>